

SAIGOTAKAMORI in kagoshima



西郷どん案内帖

鹿児島と西郷隆盛を
読み解くGUIDE BOOK

鹿児島県
観光案内

かごしまにどんとん!
遊びに来てね!

観光かごしま大キャンペーン推進協議会事務局

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 鹿児島県観光課内
TEL099-286-3006 FAX099-286-5580

「かごしまの旅」 鹿児島県観光サイト

<http://www.kagoshima-kankou.com/>

公益社団法人鹿児島県観光連盟

〒892-0821 鹿児島市名山町9-1 県産業会館
TEL099-223-5771 FAX099-225-7484

かごしま遊楽館

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-6-4千代田ビル
TEL03-3506-9177 FAX03-3506-9178

鹿児島県東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館12階
TEL03-5212-9060 FAX03-5212-9063

鹿児島県大阪事務所

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3-1-900 大阪駅前第1ビル9階
TEL06-6341-5618 FAX06-6341-7210

鹿児島県福岡事務所

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街8-20 第二博多相互ビル5階
TEL092-441-2852 FAX092-441-2863

協力・資料提供

仙巖園 ◆P17 「仙巖園」写真

尚古集成館 ◆P32 「尚古集成館外観」写真

企 画

特定非営利活動法人

まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会

<http://www.tankennokai.com>

発 行

観光かごしま大キャンペーン推進協議会事務局

参考文献

「西南戦争—西郷隆盛と日本最後の内戦—」 小川原正道 2007年

「島津斉彬の挑戦—集成館事業—」 田村省三他 2003年

「人物叢書 西郷隆盛」 田中惣五郎 1958年

「人物叢書 小松帯刀」 高村直助 2012年

「人物叢書 島津斉彬」 芳即正 1993年

「西南戦争 戦争の大義と動員される民衆」 猪飼隆明 2008年

「西郷隆盛と土族」 落合弘樹 2005年

「西郷隆盛と薩摩」 松尾千歳 2014年

「西郷隆盛全集」 西郷隆盛全集編集委員会編 1976-1980年

西郷隆盛ゆかりの施設

さいごうなんしゅうけんしょうかん 西郷南洲顕彰館

南洲公園内にあり、西郷隆盛をはじめ明治維新の先覚者たちの偉業を伝える資料館。西郷隆盛の遺品やジオラマなどを展示。同じ敷地内には西南戦争の戦死者が埋葬された南洲墓地、西郷隆盛が祀られた南洲神社もある。



[DATA]

〒892-0851 鹿児島市上竜尾町2-1
☎ 099-247-1100
🕒 9:00～17:00
📅 月曜(祝日の場合は翌日)、12/29～1/1
👤 一般 200円、小・中学生100円
(20名以上団体割引あり)
🚌 普通車:50台、バス:10台

いしん かん 維新ふるさと館

幕末から明治にかけて活躍した人物を多く輩出した加治屋町にあり、幕末の様子がわかる展示、西郷隆盛や大久保利通など明治維新期に活躍した人物について知ることができる。西郷隆盛生誕地、大久保利通生い立ちの地にも近いので、見学と周辺散策を合わせてすることおすすめ。



〒892-0846 鹿児島市加治屋町23-1
☎ 099-239-7700
🕒 9:00～17:00(入館は16:30まで)
📅 年中無休
👤 大人300円、小・中学生150円
(20名以上団体割引あり)
🚌 普通車:24台、バス:8台

かごしまけんれきししりょう れいめいかん 鹿児島県歴史資料センター黎明館

鶴丸城(鹿児島城)跡に建つ鹿児島の歴史がわかる人文系の総合博物館。国宝、重要文化財を含む約18万点の実物資料を収蔵し、鹿児島県の歴史、民俗、美術・工芸を紹介。常設展示場(1階から3階)には、西郷隆盛直筆の手紙や書、所用の刀、軍服、陣羽織、狩羽織などがある。(展示の内容は変わることがあります。)



〒892-0853 鹿児島市城山町7-2
☎ 099-222-5100
🕒 9:00～18:00(入館は17:30まで)
📅 月曜(祝日の場合は翌日)、毎月25日(25日が土・日曜の時は閉館)
👤 大人310円、高校生・大学生190円、小・中学生120円(20名以上団体割引あり)
🚌 普通車:200台、バス:5台

しょうこしゅうせいかん・せんがえん 尚古集成館・仙巖園

仙巖園に隣接する尚古集成館では、幕末の薩摩藩が果たした役割について、島津家の歴史、海外とのかかわりなどから学ぶことができる。付近一帯は、西郷隆盛を見出した島津斉彬の興した「集成館事業」が行われた場所。現尚古集成館本館と、仙巖園内の反射炉跡は、2015年に世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産に登録された。



📍 (尚古集成館) 〒892-0871 鹿児島市吉野町9698-1
☎ 099-247-1511
📍 (仙巖園) 〒892-0871 鹿児島市吉野町9700-1
☎ 099-247-1551
🕒 8:30～17:30
📅 年中無休
👤 大人1,000円、小・中学生500円(尚古集成館・仙巖園 共通)
🚌 普通車:100台、バス:25台

さいごうなんしゅうきねんかん 西郷南洲記念館

西郷隆盛が島津久光によって2度目の遠島を命じられた沖永良部島。西郷隆盛を表す言葉としても有名な「敬天愛人」の思想をこの地で確立したといわれており、記念館が建てられている。記念館前には当時の牢獄を再現した牢があり、その中に西郷隆盛の像がある。



〒891-9112 大島郡和泊町和泊587-3
☎ 0997-92-0999
🕒 9:00～17:00
📅 月曜(祝日の場合は翌日)、12/29～1/3
👤 高校生以上200円、小・中学生100円
📍 沖永良部空港から車で約15分
🚌 普通車:10台

さつまでんしょうかん 薩摩伝承館

約3000点のコレクションの中から、約380点を展示してある薩摩の歴史と文化を伝える美術館。西郷隆盛のゆかりの品々、書などを展示した「薩摩の間」のほか、幕末から明治にかけて世界で評価された薩摩金襴手のコレクションなどを楽しめる「維新の間」など多様な薩摩焼の魅力を伝える空間で構成される。



〒891-0404 指宿市東方12131-4
☎ 0993-23-0211
🕒 8:30～18:00
📅 年中無休
👤 大人1,500円、大学生1,200円、高校生600円、小・中学生300円
📍 JR指宿駅から車で約10分(指宿白水館敷地内)
🚌 普通車:200台、バス:20台

P.32	P.29	P.27	P.25	P.23	P.17	P.13	P.9	P.5	P.3	P.2	P.1
西郷隆盛ゆかりの施設	西郷隆盛年表	西郷ゆかりの地マップ	ガイド情報 実話・逸話どころく	日本全国で活動した西郷隆盛	西郷隆盛を取り巻く人々	「西南戦争」	ラストサムライたちの戦い	西郷どんの島暮らし	西郷どんの温泉地	西郷隆盛が育ち、 最期を迎えた鹿児島城下	教えて！西郷どん
											西郷どんのコラム

目 次



鹿児島の人なら誰でもご存じ西郷さん
意外にも知らないことがいっぱいありました！



教えて！西郷どん／

西郷さんの

趣味や特技 はなんですか？

釣りが好きだったようで奄美大島の屋入（やにゅう）（現龍郷町）でも釣りをしたと伝わります。また、手先の器用さも西郷さんの特徴で、沖永良部島では細かい作業が必要な烏賊餌木（いかえぎ）を漁民から求められて作っていたようです。また、狩りに使用する際の草鞋（わらじ）なども自分で編んでいたといえます。食べ物に関しては自邸において、味噌作りやしょうゆ作りにも精を出すなど意外な一面がありました。奄美大島では結婚するまで自炊もしていました。

西郷さんの

家族のことも教えてください！

鹿児島で3回、住む家が変わっている西郷さん。どの家でもたくさんの家族と暮らしていました。まず、生家である下加治屋町（したかじやまち）では、一番多い時で、祖父母と両親、弟3人と妹3人の11人の大家族でした。次の上之園の借家では、奄美諸島への配流や京・大坂など上方での活動で留守がちでしたが、慶応元（1865）年にイトと結婚しています。明治維新後に暮らした武の屋敷では、妻のイト、奄美から引き取った菊次郎、菊子、イトとの間の子である寅太郎、牛次郎、西三、戊辰戦争で亡くなった弟の吉二郎の妻とその子供2人、小兵衛の妻とその子、沖永良部島でお世話になった川口雪達と大家族で暮らしていました。



西郷さんの

好きな食べ物は なんですか？

うなぎ
あと、
鰻。豚肉です！

自身も大好物であった鰻。狩り帰りに鹿児島島の八坂神社横の鰻屋を訪れ、猟犬にまで食べさせたという話があります。また、武の自邸であんこの入ったかるかんまんじゅうを食べたり、国分では今も伝わるお菓子に「角（かく）まんじゅう」と名付けたと言われているので、甘いものも好きだったようです。



西郷さんって本当に 太っていたの？

実際の写真が存在しない西郷さんですが、残された衣服や親戚岩山トクさんの証言などからも当時の平均身長や体重からしてもはるかに巨体（推定で身長178cm、体重110kg）であったことは知られています。

焼酎はもちろんお酒は苦手だったようです。ただ、煙草は大好きで、奄美大島に滞在中も煙草が切れたときに大久保から送られてきて喜んでいました。また、考え事をする際に煙管で目や頭の周辺を撫でまわすことを癖としていました。

西郷さんの

好きな動物は？

西郷さんの犬好きは広く知られていて、銅像にもなっている薩摩犬の「ツン」は有名です。

飼っていた犬は「ツン」だけ？

飼っていたのは一匹ではなく、多いときには十匹以上の犬を自邸に飼っていました。名前は「シロ」「クロ」「カヤ」など毛並みなどの見た目から名前を付けていました。珍しい名前としては、「攘夷家（じょういか）」という犬もいて、これは外国人にだけ吠える性質を持っていたからだといえます。

どうしてそんなに犬を飼っていたの？

これらの犬は狩りの際に役立てられました。時には犬の調教などに苦労もしたようです。国分郷士（こくぶごうし）の山内基五郎は、その際の指南役でしたし、弟の信吾こと従道（じゅうどう）から譲られた洋犬は懐（なつ）かずに苦労したという話もあります。

西郷さんは

本当に西南戦争で死んだの？

明治10（1877）年9月24日の城山での戦いにおいて西郷さんは亡くなりました。ただ、その際に首と胴体が時間を置いて別々に発見されたことから、西郷生存説が生まれることになりました。例を挙げると、ロシア皇太子が明治24（1891）年来日した際に、鹿児島にも立ち寄りました。その際、わざわざ鹿児島に寄ったのは、ロシアに逃れた西郷さんが来るためだといううわさが広がりました。こうしたうわさは、人々の間に西郷さんは生きていてほしいという願いのようなものが背景にあったためかもしれません。



西郷さんは鹿児島の人だから 焼酎が好きなんですか？

西郷どんのコラム

鹿児島と西郷隆盛を読み解く

明治維新の功労者でありながら、最後で最大の士族反乱の首謀者として散った西郷隆盛。近代化になじめなかった「最後の武士」の面を見出す向きもあるが、彼の生涯を通して見えてくるものは、「農」に立脚した国の在り方ではあるまいか。

文政10（1827）年鹿児島城下加治屋町に生を受け、初めての役職は郡方書役助で農政を担当し、その際農村の疲弊に胸を痛め意見書を出し続ける。嘉永4（1851）年斉彬が藩主に就任すると、嘉永7（1854）年にはその江戸出立の供に加えられ庭方役となる。斉彬は西欧列強の脅威に對抗しうするため公武合体によって国論をまとめることを目指し、藩内では近代化を進める集成館事業を興すなど先見の明のある藩主であった。これは軍備のみならず民需の充実と近代化にも心を配ったものであった。斉彬は次期將軍に一橋慶喜を願っており、西郷はその工作に奔走するなか多くの人物とつながる。しかし安政5（1858）年になると井伊直弼が大老に就任、一橋派の形勢は不利となり斉彬も病死する。西郷は尊王の僧・月照を匿う中で共に錦江湾に投身、西郷のみ一命をとりとめた。

幕府の目を避けるために奄美大島に潜居することになった西郷であったが、この地で愛加那と出会い、菊次郎、菊子の二子をもうける。この間井伊大老を襲撃する桜田門外の変などもあって政局はますます不安定となり、斉彬の遺志を継ぐべく出府を期した斉彬の異母弟・島津久光は、登用した大久保一藏（利通）ら精忠組の嘆願もあり西郷を呼び戻す。しかし久光上京の知らせに浮き立つ者たちの暴発を防ぐために先を急いだことが君命に背いたとされ、徳之島、さらに沖永良部島への流罪となる。沖永良部島は琉球に近くここで学んだ知識人も多く、彼らとの交流を通じて西郷の思想は深まった。

薩英戦争を経験し、攘夷の無謀さをより痛感した薩摩藩は、攘夷論の先

鋒・長州藩と対立。この状況で召還された西郷は、朝廷での勢力争いに端を発する禁門の変に勝利し、朝敵となった長州藩の幕府による武力討伐を話し合いで回避するなど手腕を発揮する。しかし、かつて將軍職にと切望した慶喜と薩摩藩の意見は合わなくなっており、下関戦争を戦い攘夷論から転じた長州との同盟を締結、天皇を中心とした近代国家の成立を目指し倒幕へと舵を切り、戊辰戦争を戦い明治新政府が樹立した。この間西郷は参謀として指揮、勝海舟との話し合いによる江戸城無血開城がさらに彼の名を高めた。

明治政府の中でも廃藩置県の実施など手腕を発揮するが、朝鮮に対する対応をめぐる大久保らと意見を違えて鹿児島に戻る。下野後、西郷は私学校を設立し不平士族の懐柔に努め、そして困窮する士族のため吉野開墾社を興した。他藩に比べて士族の割合が高いこともありこの救済は必須であり、かつて斉彬の指し示した海外と肩を並べる富国に通じ、西郷はこの面で近代化を目指したといえる。「兄孫の為に美田を買わず」と西郷の言葉を集めた「南洲翁遺訓」の中にあるが、この事業も子孫やましてや自身の安楽の為ではなく、中央政府に残ったものたちと同じく直面する国の在り方や行く末のためであった。

それだけに、明治10（1877）年士族の不満が西南戦争という形で現れ、西郷自身も彼らとともに郷里・鹿児島島の城山でその一生を閉じたことは、悲劇であった。

原口 泉
大河ドラマ「西郷どん」時代考証 /
志學館大学教授 / 県立図書館長



西郷どんゆかりの地を巡るなら周遊バスが便利！ カゴシマシティビュー & まち巡りバス

④ 鹿児島中央駅	▶ 西郷武屋敷跡：徒歩約5分 西郷南洲翁宅地跡(共研公園)：徒歩約3分
⑧ 維新ふるさと館 (観光交流センター)前	▶ 維新ふるさと館：徒歩すぐ 西郷隆盛誕生地：徒歩約1分
③ 天文館	▶ 西郷隆盛銅像：徒歩すぐ
⑤ サビエル公園前	▶ 鹿児島県歴史資料センター 黎明館：徒歩すぐ 私学校跡石塀：徒歩約3分
⑩ 西郷銅像前	▶ 西郷隆盛銅像：徒歩すぐ
⑥ 薩摩義士碑前	▶ 西郷隆盛洞窟：徒歩すぐ
⑦ 西郷洞窟前	▶ 西南戦争薩軍本営跡 (ドン広場)：徒歩約1分
⑨ 城山	▶ 西郷隆盛終焉の地：徒歩約2分
⑪ 西郷洞窟前	▶ 西郷隆盛終焉の地：徒歩約2分
⑫ 薩摩義士碑前	▶ 西郷隆盛終焉の地：徒歩約2分
⑬ 西郷南洲顕彰館 (南洲公園)前	▶ 南洲墓地・西郷南洲 顕彰館：徒歩すぐ
⑭ 今和泉島津家本邸跡 (篤姫誕生地)前	▶ 南洲公園入口
⑮ 仙巖園(磯庭園)前	▶ 異人館前
⑯ 異人館(磯海水浴場)前	▶ 異人館前
⑰ 石橋記念公園前	▶ 官軍戦没者慰霊塔：徒歩約3分
⑱ 鹿児島駅(かんまちあ)前	
⑲ かごしま水族館(桜島橋)前	
⑳ ドルフィンポート前	
㉑ 金生町	▶ 月照上人 遺跡の碑：徒歩約1分
㉒ 鹿児島ブランドショップ前	
㉓ 天文館	
㉔ 鹿児島中央駅	

※カゴシマシティビューとまち巡りバスの乗り間違いにご注意ください。

カゴシマ シティビュー

始発8:30、最終17:30鹿児島中央駅発
30分毎に運行(所要時間約80分)

●運賃大人190円/回、小人100円/回
●一日乗車券大人600円、小人300円

問合先/鹿児島市交通局
バス事業課099-257-2117
※詳しくは、鹿児島市交通局
ホームページ
<http://www.kotsu-city-kagoshima.jp/>
でご確認ください。

まち巡りバス

始発8:55、最終17:35鹿児島中央駅発
20分毎に運行(所要時間約60分)

●運賃大人170円/回、小人90円/回
●一日乗車券大人500円、小人250円

問合先/鹿児島交通(株)099-247-2334

※詳しくは、
いわさきコーポレーション
株式会社ホームページ
<http://www.iwasaki-corp.com/>
でご確認ください。

さいごうたけやしきあと(たけまち)
西郷武屋敷跡(武町)



ざ ぜんいし(しろやま)
座禅石(城山)



明治2(1869)年に西郷家に移り住み、西郷も晩年を過ごした屋敷。使用したと伝わる井戸等が残る。戊辰戦争後に旧荘内藩士菅実秀らが教えを乞いにこの屋敷を訪れたことから「徳の交わり」の像も据えられている。

<アクセス>
JR鹿児島中央駅から徒歩約10分。Pなし。

青年期の西郷隆盛や大久保利通が心身を鍛えるために座禅をくんだという石が残る。もともと誓光寺という寺があった場所で島津家の菩提寺である福昌寺で住職を務めた無参和尚が指南したという。

<アクセス>
JR鹿児島中央駅から車で約10分。バス停坐禅石公園から徒歩すぐ。Pなし。

さいごうなんしゅうのやしきあと(にしべつぷがちょう)
西郷南洲野屋敷跡(西別府町)



鹿児島城下の郊外にあり、西郷家の畑仕事のための屋敷。西南戦争時には、妻・イトが11人の家族と生活していた。西郷が最期を迎えた城山が遠くに望める場所にある。

<アクセス>
JR鹿児島中央駅から車で約20分。かごしま文化工芸村から徒歩約10分。Pなし。



城山周辺

城山周辺は西南戦争の最終局面の史跡が点在する。

詳しくは P.16 参照

加治屋町周辺

加治屋町周辺は幕末から明治にかけて多くの人材を輩出した地域。

詳しくは P.18 マップ参照

さいごうたかもりせせいのいえ(よしのちょういそ)
西郷隆盛蘇生の家(吉野町磯)



安政5(1858)年、安政の大獄で幕府に追われた京都清水寺の勤皇の僧・月照とそれをかくまった西郷は、ともに錦江湾に入水。西郷のみが一命をとりとめた。現地にある茅葺き屋根の家は昭和44(1969)年に復元されたもの。

<アクセス>
JR鹿児島中央駅から国道10号沿いに北上、車で約25分、バス停花倉から徒歩すぐ。Pなし。

さいごうなんしゅうおうたくちあと(うえのそのちょう)
西郷南洲翁宅地跡(上之園町)



西郷が江戸で働いている安政2(1855)年、生活に困窮した西郷家は加治屋町の家を手放し、この地に移った。慶応元年に坂本龍馬が鹿児島を訪れた際は1泊したといい、妻イトに龍馬がふんどしの借用を頼ったというエピソードが伝わる。

<アクセス>
JR鹿児島中央駅から徒歩約5分。Pなし。

さいごうたかもりたんじょうち(かじやちょう)
西郷隆盛誕生地(加治屋町)



西郷隆盛が生まれ育った家は鹿児島城下を流れる甲突川の河畔地域・加治屋町にあった。その敷地は明治22年に、近くにある大久保利通生い立ちの地とともにほぼ同じ広さ、同じ大きさの石碑が建てられ公園化され、今も守られている。

<アクセス>
JR鹿児島中央駅から徒歩約10分。維新ふるさと館前から徒歩約1分。Pなし。

さいごうまつ

西郷松



奄美大島滞居を命じられた西郷は龍郷の阿丹崎に上陸。彼を乗せた船がとも綱をつないだと伝えられた「西郷松」があったが近年松枯れの被害を受けた。「りゅうがく館」にはその西郷松を利用して作られた西郷隆盛と愛加那の木像が入口に展示されている。

【りゅうがく館】

○所在地／大島郡龍郷町瀬留968-1 ○開館時間／9:00～22:00(日曜日は～17:00) ○休館日／年末年始 ○電話／0997-62-3110

なんしゅうるたくあと

南洲流謫跡



龍家の娘・愛加那と結ばれ、菊次郎を授かった西郷が、文久元(1861)年に自ら設計し移り住んだ新居の跡地にある。集落には、愛加那も使用したと伝わる井戸跡もある。

○所在地／大島郡龍郷町龍郷 ○アクセス／奄美空港から車で約30分 ○駐車場／あり

なんしゅうじんじゃ

南洲神社



西郷隆盛が滞居した龍郷ではなく、山を越えた芦花部に西郷を御祭神とする神社がある。集落の人々が尽力し鹿児島から分霊して、昭和15(1940)年に建立。

○所在地／奄美市名瀬大字芦花部 ○アクセス／奄美空港から車で約50分 ○駐車場／なし

みやこざき

宮古崎

奄美大島の大和村と奄美市の境目に位置する宮古崎。森林に囲まれた奄美大島では珍しく、リュウキュウチクの笹原が広がる岬。西郷隆盛がこの場にきたことを示す記録はないが、本土に帰る際に宇検方面に流された際や、徳之島への遠島の際に沖合を通過している。

○所在地／大島郡大和村国直 ○アクセス／国直サンセットパークから徒歩約30分 / 駐車場あり



そのけじゅうたくしゅおく/ていえん

蘭家住宅主屋/庭園



主屋は1868年に建てられており奄美の伝統的な家屋の形態を伝える国の有形文化財。庭園は市の文化財に指定されている。

○所在地／奄美市笠利町大字用安字竹作167-1 ○アクセス／奄美空港から車で約20分



Tokunoshima

大河ドラマ西郷どん撮影地

黒島

Mishima

硫黄島

竹島

Kuchino

erabujima

口永良部島

屋久島

(一湊)

Yakushima

Tanegashima

まくらざきこう

枕崎港

奄美大島・龍郷から召還された西郷が1か月弱の船旅からようやくたどり着いた本土の港。文久2(1862)年2月11日に、カツオ漁船で到着した。港近くの立志清右衛門宅に宿泊したと伝わり、現在は石垣のみが当時をしのばせてくれる。

○所在地／枕崎港市 ○アクセス／JR 枕崎駅から徒歩約10分 ○駐車場／なし



やまがわこう

山川港

2度の奄美群島行の際に風待ちなどで滞した港。琉球行きの船も寄港する天然の良港でもある。文久2(1862)年6月には滞在中に眼病を患いここで治療もしている。

○所在地／指宿市山川 ○アクセス／JR 山川駅から車で約5分 ○駐車場／なし



くちのえらぶじま

口永良部島

文久2(1862)年2月に奄美大島に滞在中の西郷に召還状が届き、枕崎へと向かう際に10日間立ち寄った島。ここでは風呂に入れてもらった島民にお礼として財布を与えたという話が伝わる。

きかいじま

喜界島

西郷と行動を共にし同じく遠島を命じられた村田新八が流された島。元治元(1864)年2月26日、沖永良部島からの召還命令が出た西郷は、この島に立ち寄り村田も上船させ鹿児島へ向かった。

○所在地／喜界町湾 ○アクセス／喜界島空港から車で約5分 ○駐車場／なし



やくしま (いっそう)

屋久島(一湊)



遠島のため徳之島に向かう際、山川港から出発。一時黒島方面に流されたが文久2(1862)年6月18日一湊に到着。1週間ほど滞在中が同じ罪で喜界島へ流された村田新八の日記にのこる。

○所在地／屋久島町一湊 ○アクセス／宮之浦港から車で約15分 ○駐車場／なし

西郷どんの島暮らし

西郷は二度奄美群島で暮らしています。一度目の遠島は滞居という形で、安政の大獄により京都から逃れてきた動皇の僧・月照と入水自殺を図るものの自分だけが死にきれず幕府から身を隠すことが目的。二度目は一度目の遠島から許された直後に、藩の実権を握っていた国父・久光の命令に背いたための流罪でした。ゆったりとした時間の流れる美しい島の風景とそれぞれの島で出会った人々は、その後の西郷の人間形成に大きく影響しています。



西郷どんで奄美諸島をまわろう！

鹿児島空港発着編

1日目

鹿児島空港 — (飛行機で約55分～約65分) — 奄美空港 — (レンタカー(車で)約20分) — 龍郷町「りゅうかく館」見学(車で約10分) — 南洲流跡 — (車で約20分) — 芦花部の南洲神社 — (車で約25分) — 奄美市街地(時間に応じて観光)

2日目

奄美大島・名瀬港(フェリーで約3時間30分)・(飛行機で約35分) — 徳之島・亀徳港 — (レンタカー(車で)約15分) — 井之川・西郷松 — (車で約25分) — 岡前・西郷隆盛謫居地(車で約15分) — 西郷隆盛上陸地(車で約5分) — (時間に応じて徳之島観光)

3日目

徳之島・亀徳港 — (フェリーで約2時間) — 沖永良部・和泊港 — (レンタカー(車で)約5分) — 西郷南洲記念館・南洲神社 — (車で約5分) — 西郷隆盛上陸地(時間に応じて沖永良部観光) — 沖永良部空港(飛行機で約65分)鹿児島空港～各地空港へ

羽田空港・大阪空港発着編

1日目

各地空港 — 鹿児島空港 — (飛行機で約65分) — 沖永良部空港 — (レンタカー(車で)約15分) — 西郷南洲記念館・南洲神社 — (車で約5分) — 西郷隆盛上陸地(時間に応じて沖永良部観光) — 沖永良部・和泊港 — (フェリーで約2時間) — 徳之島・亀徳港(宿泊)

2日目

井之川・西郷松 — (レンタカー(車で)約25分) — 岡前・西郷隆盛謫居地(車で約15分) — 西郷隆盛上陸地(車で約5分)(時間に応じて徳之島観光) — 徳之島・亀徳港 (フェリーで約3時間30分) — 奄美大島・名瀬港 (宿泊)

3日目

名瀬市内(レンタカー(車で)約30分) — 龍郷町「りゅうかく館」見学 — (車で約10分) — 南洲流跡 — (車で約20分) — 芦花部の南洲神社 — (車で約25分) — (時間に応じて奄美大島観光) — タワ飛行機で各地へ

のんびり船旅も！ [フェリー時刻表]

鹿児島港	名瀬 (奄美大島)	亀徳 (徳之島)	和泊 (沖永良部島)	与論島・沖縄
出 18:00	(翌日 入 05:00 2日目)出 05:50	入 09:10 出 09:40	入 11:30 出 12:00	→
(翌日2日目) 入 08:30	入 20:30 出 21:20	入 16:30 出 17:00	入 14:10 出 14:40	←

問合せ)マルエーフェリー 099-226-4141 / マリックスライン 099-225-1551
※時刻表は2018年6月現在のものです



徳之島からさらに南に位置するこの島への遠島を命じられた西郷。当初吹きさらしの牢という過酷な環境に置かれていたが、島役人の土持政照の尽力により待遇も体調も改善する。それからは島の若者に勉強を教えたり、飢餓に備えて豊作時に穀物等を保存する「社倉法」を広めたりするなど、島民の尊敬を得た。またのちに西郷家の留守居役を果たす書家の川口雪篷と出会い、書や漢詩で交流を深めた。

おきのえらぶじま

沖永良部島

なんしゅうおうたつきよのち

南洲翁謫居の地

和泊に到着し初めてに入った牢屋は、風雨も吹き付ける2坪ほどのもので、西郷はこの場にて座禅を組み、どんどん身体が衰弱していく。それを救ったのが島役人の土持政照で、座敷牢を建設し、土持の家族も西郷の面倒を見ることになる。同敷地内には、西郷南洲記念館があり貴重な遺品や遺訓等が展示されている。

○TEL / 0997-92-0999 ○所在地 / 大島郡和泊町和泊587-3

○アクセス / 沖永良部空港から車で約15分 ○駐車場 / あり



さいごうたかもりじょうりくのち

西郷隆盛上陸の地



徳之島の井之川から遠島命令によって沖永良部島に到着したのは文久2(1862)年の閏8月14日。到着したものの、和泊の牢屋が完成していなかったため船中で2日間を過ごしている。

○所在地 / 大島郡和泊町伊延1169-10
○アクセス / 沖永良部空港から車で約10分
○駐車場 / あり

かわぐちせつぼうせんせいいたつきよのち

川口雪篷先生謫居之地



川口雪篷は、西郷が沖永良部島に流罪となった時、親交のあった人物。父と兄が罪に問われ、連座制によって沖永良部島に遠島された。雪篷は西郷に漢詩や書の手ほどきをしたとされ、雪篷が生活していた西原集落に碑が建立されている。

○所在地 / 大島郡和泊町西原203-1
○アクセス / 沖永良部空港から車で約5分

なんしゅうじんじや

南洲神社



明治34(1901)年に建立され御祭神は西郷隆盛。同敷地には南洲文庫跡(図書館)や西郷隆盛像が建立されている。大正8(1919)年に架橋された社殿横の美しい石橋には南洲橋の名がつけられている。

○所在地 / 大島郡和泊町手々知名615番地
○アクセス / 沖永良部空港から車で約15分
○駐車場 / あり

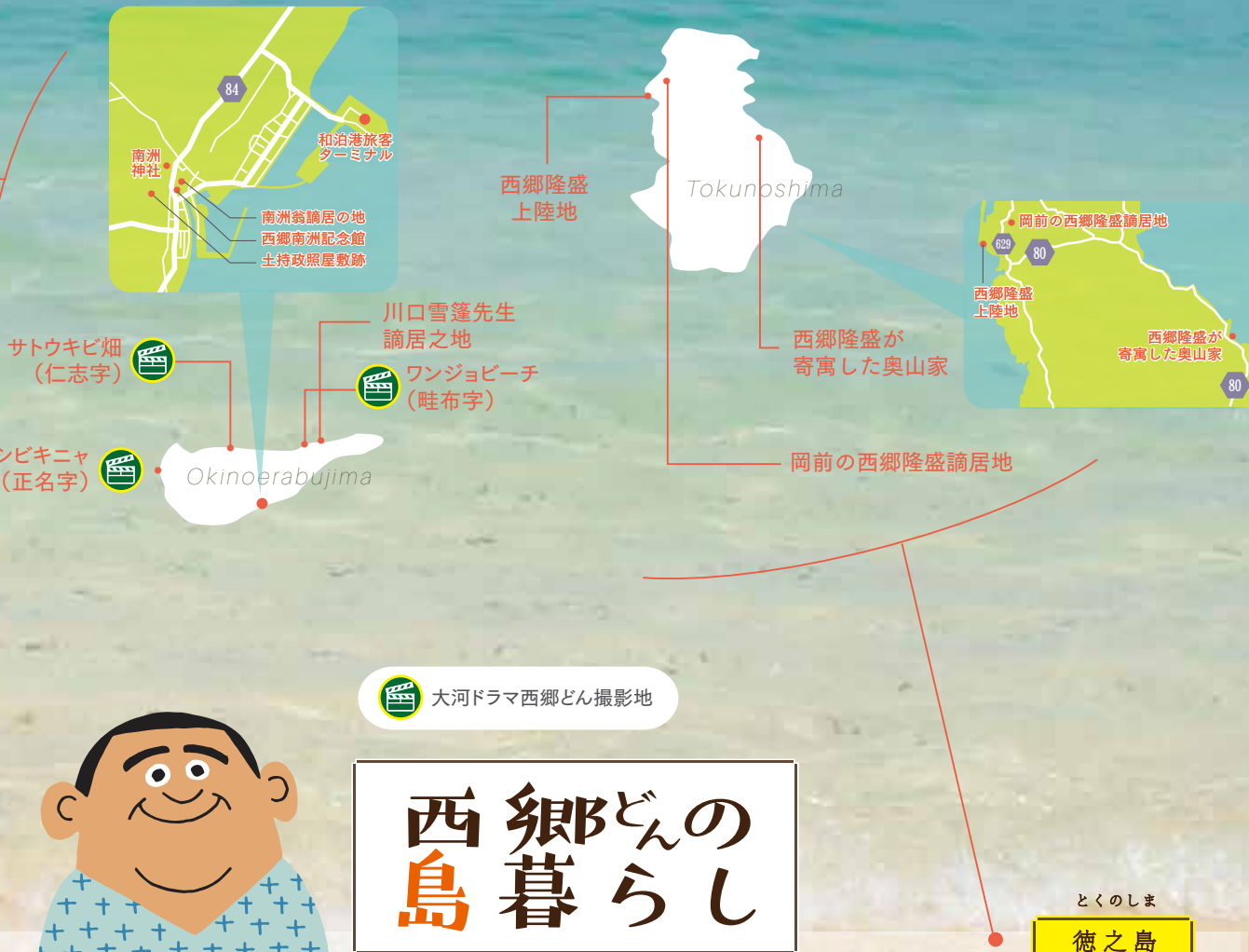
つちもちまさてるやしきあと

土持政照屋敷跡



土持は、「間切横目」という役職にあった人物で、流罪人の監視をする立場にありながら入牢した西郷に家族とともに親切を尽くし、座敷牢を建設中には自身の屋敷で休ませ、体力を回復させた。西郷は、岩の上にそびえる雄大な蘇鉄を眺め心を癒され、生きる喜びを感じたといわれている。

○所在地 / 大島郡和泊町和泊568-2
○アクセス / 沖永良部空港から車で約15分



文久2(1862)年に遠島を命じられた西郷が最初に流された島。西郷のもとに、菊次郎と生まれたばかりの菊草を会わせようと奄美大島から愛加那が到着し、再会が叶った。しかし島津久光からさらなる沖永良部島への遠島命令が下り、再び家族との別れることになる。

さいごうたかもりじょうりくち

西郷隆盛上陸地



湾仁屋湊(湾屋)に西郷隆盛が到着したのは文久2(1862)年7月5日頃。鹿児島から屋久島、奄美大島を経由しての船旅であった。現在は徳之島空港の隣接地に記念碑が建つ。

○所在地 / 大島郡天城町浅間 ○アクセス / 徳之島空港から車で約3分 ○駐車場 / あり

おかぜんのさいごうたかもりたつきよち

岡前の西郷隆盛謫居地



徳之島に到着した西郷隆盛は岡前の松田勝伝の家に落ち着く。ここに留まったのは2か月に満たない期間だったが、住民との交流、砂糖政策に関する役人への進言や子どもたちへの教育の様子が今も大切に語り継がれている。

○所在地 / 大島郡天城町岡前 ○アクセス / 徳之島空港から車で約10分 ○駐車場 / なし(岡前西郷公園を利用)

さいごうたかもりがきぐうしたおくやまけ

西郷隆盛が寄寓した奥山家



沖永良部島へのさらなる遠島命令が下った西郷隆盛が、そこへ向かう船を待ったのが島の東側に位置する井之川集落。滞在宅跡には西郷が腰かけものの想いにふけたとされる松が残されている。

○所在地 / 大島郡徳之島町井之川 ○アクセス / 徳之島空港から車で約45分 ○駐車場 / なし

西郷どんゆかりの温泉地

西郷隆盛は、全国の偉人のなかでも群を抜く温泉好き。温泉に通ったのは、趣味の狩りや釣りを一緒に楽しめる環境にあったということと、病氣治療や体調管理からの必要性もありました。

西郷隆盛の体型は、身長が高く太っている大柄なものであったのはよく知られています。そのことから健康維持のために運動と入浴を心がけ、特に明治政府を辞して時間の余裕が生まれた明治7（1874）

4）年以降は、湯治と狩猟に頻繁に出かけています。また、西郷隆盛は漢詩もたしなみ、特に温泉地では、生活や情景を主題にした作品を数多く残しています。

西郷隆盛が、その業績の大きさだけでなく、身近で親しみのある存在として現在でも慕われる理由のひとつに、湯治場でのリラックスした姿のイメージがあるからではないでしょうか。



文政8（1825）年発見のかつては木房温泉と呼ばれた共同浴場（西郷どんの湯）

ひなたやまおんせん

日当山温泉

- 所在地／霧島市隼人町
- アクセス／日当山温泉郷：最寄駅 JR日当山駅。隼人西ICから車で約15分。溝辺鹿児島空港ICから車で約15分。
- 問合せ／日当山温泉旅館組合（霧島市） ☎0995-42-0607（清姫温泉）

西郷隆盛が最も頻繁に訪れた湯治場。坂本龍馬が寺田屋事件で手に傷を負った際に妻お龍を伴い霧島の山手の温泉へ出かけていた慶応2（1866）年3月や戊辰戦争から戻って来た明治元（1868）年11月などに訪れた記録がある。明治2（1869）年2月には、藩主の島津忠義がわざわざ西郷に会いに当地を訪れている。

明治政府を辞した明治6（1873）年以降は、明治7（1874）年12月、明治9（1876）年11月に湯治しており、その際には地元の名家である龍宝家の屋敷を間借りして滞在している。また自身の家族を伴って湯治に訪れている。



この地に滞在していた西郷隆盛がよく草鞋を編んでいたと伝わる崖下（日当山温泉センター敷地内）



ゆかりの地らしく外壁にも描かれている西郷隆盛（西郷どんの湯）

日当山西郷どん村「西郷どんの宿」

西郷隆盛が最も訪れた記録が残っている日当山温泉にある観光交流拠点。当時西郷が滞在した龍宝家にあり、馬をつないだと伝わる一ツ葉（イヌマキ）の木もある。



- 所在地／〒899-5116 霧島市隼人町内1487-1
- アクセス／JR日当山駅から徒歩約5分、溝辺鹿児島ICから車で約15分
- 問合せ／☎0995-42-5880
- 時間／9:00～18:00
- 休み／なし
- 駐車場／普通車：70台、バス：3台

吹き上（伊作）温泉

- 所在地／日置市吹き上町湯之浦
- アクセス／谷山ICから車で約40分。美山ICから車で約30分。
- 問合せ／日置市観光協会 ☎099-248-7380

明治3（1870）年4月に訪れた記録がある。明治元（1868）年の戊辰戦争の際、兄弟の中で一人戦死した吉二郎は伊作の郷土と共に戦っており、悼む気持ちからの訪問であったかもしれない。また湯治のみならず、周辺の山間部の広範囲にわたって狩猟を楽しむ、温泉街から山道へに入った場所には東郷平八郎の揮毫による狩猟場を示す記念碑がある。また、近くの坊野地区には腰掛けたといわれる大岩や使用したとされる手水鉢が民家に残されている。



西郷隆盛も訪れた温泉宿の貸切湯「西郷どんの湯」（中島温泉旅館）



東郷平八郎の揮毫による西郷南洲翁来遊の碑



温泉街の入り口で出迎える西郷さんのモニュメント



坊野地区で西郷が腰かけたと伝わる「西郷石」

よしだおんせん 吉田温泉

- 所在地／宮崎県えびの市市明寺
- アクセス／えびのICから車で約10分。JR京町温泉駅から車で約3分。JR吉松駅、真幸駅から車で約10分。
- 問合せ／えびの市観光協会 ☎0984-35-3838

吉田温泉は、現在の宮崎県えびの市の北西に位置する山間部にひっそりと佇む温泉地。かつては、島津義弘がこの地を治めていた頃に訪れている地に、西郷は明治2（1869）年6月に訪れている。それは函館まで戊辰戦争の状況も確認して帰った直後。相当疲労した状態で入浴と考えられる。それ故か入浴後に湯あたりをして発熱、下痢、腫物に悩まされている。ただ西郷自身は、その状態を受け入れ、盟友の桂久武宛の手紙に「大変な思いをしたが、悪いものが全部体内から放出されたようで心地良い」と伝えている。



吉田温泉の現在の町並み

しらとりおんせん 白鳥温泉

- 所在地／宮崎県えびの市市末永
- アクセス／えびのICから車で約20分。JRえびの駅から車で約20分。
- 問合せ／えびの市観光協会 ☎0984-35-3838

えびの市街地からえびの高原へと抜ける道沿いにあり、霧島の山々に囲まれた避暑地としては最高の温泉地。明治7（1874）年の7月に西郷はこの地を訪れている。温泉湯治はもちろんのこと、狩りも目的のひとつであった。しかし、西郷は鹿児島を7月13日に出発した段階で、猟銃を忘れたことに気付く、弟の小兵衛に船便で後から届けさせている。また、この地までの行程では雨にたたられて大変でもあったようだ。それでも長期滞在し、数々の漢詩を残している。夏の滞在だったのだ、西郷にとっては最高の避暑になったであろう。



白鳥温泉で詠んだ漢詩を記した石碑

国道223号沿いから天降川方面を向いて立っている「日当山温泉に遊ぶ西郷隆盛先生の像」





大正3(1914)年の大噴火によって有村温泉は埋没。しかし現在も海岸を掘ると足湯を楽しむことができます。

明治9(1876)年に訪れている桜島の南側に位置する温泉。江戸時代を通じて桜島を代表する温泉地のひとつだったが、大正3(1914)年1月12日の桜島大噴火によって溶岩が流出し、施設の多くが埋没してしまった。当時、海岸に隣接する場所に湯小屋が並んでいたようで、船着き場とも近く鹿児島から訪れるにも便利であった。現在も海岸線を掘ると足湯程度のお湯を楽しむことができ、また有村町の源泉を持つ施設も営まれている。



有村町の源泉を持つ温泉(さくらじまホテル)。錦江湾を望む絶景。

有村温泉

- 所在地／鹿児島市古里町
- アクセス&問合せ／
[さくらじまホテル] ☎099-221-2311
桜島港から車で約10分。
[有村海岸での足湯] NPO法人桜島ミュージアム ☎099-245-2550
桜島港から車で約15分。



近くの有村展望所からは桜島の南岳が大迫力で眺められる。



車で約15分の薩摩高城駅は東シナ海を望む景勝地

訪れた時期は明確ではないものの、西郷隆盛が湯治を楽しんだ際の逸話が数多く伝わる温泉地。この地でも西郷は狩りに出かけたようで、近くの陽成町にはお風呂に入る際に使用したとされる踏み台も伝わっている。また湯治以外には囲碁を打ったと伝わっており、滞在していた民家には使用の碁盤や碁石もあった。他にも腰掛石や狩猟に引き連れた犬の墓など、とにかく面白い逸話の豊富な温泉地で趣のある街並みも魅力だ。

川内高城温泉

- 所在地／薩摩川内市湯田町
- アクセス／最寄駅 肥薩おれんじ鉄道西方駅。西方駅から車で約10分。薩摩川内水引ICから車で約15分。
- 問合せ／薩摩川内市観光物産協会 ☎0996-25-4700



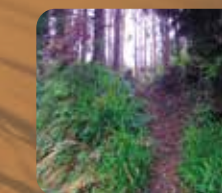
車で約25分の藤川天神にあるツンの記念碑



昔ながらの雰囲気に残る温泉街

鰻温泉

- 所在地／指宿市山川成川
- アクセス／JR山川駅、山川港から車で約15分。
- 問合せ／指宿市観光協会 ☎0993-22-3252



山川港から鰻温泉まで西郷隆盛が通ったという旧道。



鰻池の湖畔に静かにある温泉地。集落には湯気が立ち込める。

明治7(1874)年2月から3月にかけて訪れており、山川港から徒歩で向かっている。この地には、西郷と同様に明治政府で活躍し、同時期に故郷の佐賀に下野した江藤新平が訪れている。江藤は不平士族とともに決起した「佐賀の乱」に敗れ援軍を求めたが、西郷はこれに応じず、江藤はその後当地で入浴した後に四国において明治政府に捕縛された。

栗野岳温泉

- 所在地／始良郡湧水町木場
- アクセス／最寄駅 JR栗野駅。九州自動車道栗野ICから車で約20分。
- 問合せ／栗野岳温泉南洲館(始良郡湧水町) ☎0995-74-3511



南洲翁猿遊之地記念碑。

明治9(1876)年4月に訪れている。狩猟を楽しむに訪れた西郷は、のちに西南戦争で西郷軍の五番大隊長を務めた池上四郎宛の手紙のなかで、栗野岳温泉のことを「全く仙境に御座候」と書き伝え、初めて訪れたこの地をたいへん気に入っている。訪問時期が西南戦争の前年であれば、再訪があったかもしれない温泉地。



八幡大地獄 かつては明善の採掘場としてもにぎわった。西郷隆盛が「仙境」といったもうなづけるダイナミックな景観。

指宿温泉

- 所在地／指宿市
- アクセス／最寄駅 JR指宿駅または二月田駅。
- 問合せ／指宿市観光協会 ☎0993-22-3252

文久2(1862)年2月、一度目の遠島から帰った西郷が体を癒した温泉。どの施設かの明確な史料はないが、当時は二月田周辺か摺ヶ浜周辺で入浴施設が整っていた。殿様湯はその名の通り西郷が仕えた島津斉彬も訪れた藩主御用達の温泉であった。



当時から湧いていた「殿様湯」。

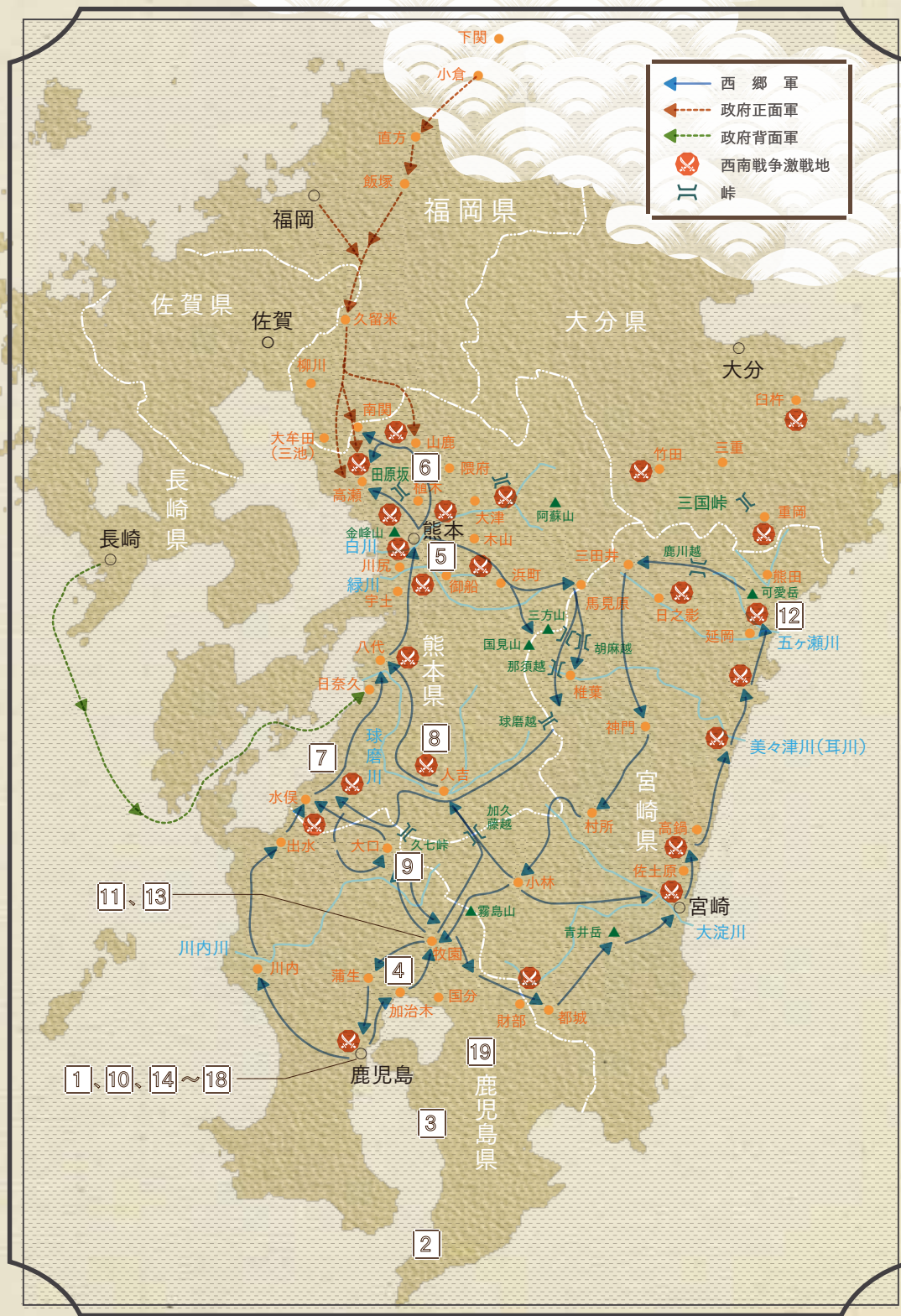


浴場、素朴ながら3種類の泉質を楽しむことができる。

ラストサムライたちの戦い——西南戦争——

戊辰戦争後、一度は鹿児島に戻った西郷でしたが、明治政府の参議となりす。特に大久保利通らが欧米諸国へ使節団として向かう中その留守を預かる「留守政府」として、「学制」「地租改正」「徴兵令」などを実行しました。しかし、その後朝鮮への使節派遣をめぐり大久保利通らと対立、明治6（1873）年10月、職を辞して鹿児島に戻ることになります。

鹿児島での西郷は「武村の吉」と名乗り、農作業や温泉湯治を繰り返す日々を送っていましたが、西郷を慕って多くの旧士族が鹿児島に帰ってきており、その合間に私学校や吉野開墾社を設立しました。明治9（1876）年になると、西日本では旧士族による反乱が発生。西郷隆盛のもとにも多くの人々が集まる状況を新政府は警戒し、警視庁は密偵を派遣して情報収集に努めていました。



「明治6年の下野から西南戦争勃発まで」



2 西郷隆盛逗留の地（根占）

明治10（1877）年の1月から大隅半島南部を中心に狩りに出かけていた西郷は小根占の平瀬邸を宿所としていた。建物のほかに手水鉢や石造りの浴槽などが当時を偲ばせる。2月1日に弟の小兵衛らが訪れ、私学校生徒が火薬庫を襲撃したことを西郷に伝えた。つまり、この地が西郷にとつての最後の休息の地であった。のち西郷隆盛の銅像が城山麓に建てられた際は、小根占の海岸からも台座の石が運ばれている。

○所在地：肝属郡南大隅町根占川北38 ○アクセス：南大隅町役場から徒歩約10分
○駐車場：なし



4 大口筋 龍門司坂

2月17日に鹿児島市街地を出発した西郷軍は、磯を経由して重富に至り、船で加治木に入り一泊。翌日この石畳の坂を踏みしめ熊本へ向かった。その際には地元の人々が太鼓や三味線も登場させて見送ったという。大口筋は、江戸時代の薩摩藩を代表する街道のひとつであり、当時も石畳が敷かれていた。現在も趣ある古道として親しまれている。

○所在地：始良市加治木町木田5088-1 ○アクセス：JR加治木駅から車で約3分
○駐車場：あり



1 吉野開墾社碑

明治6（1873）年に鹿児島島に戻った西郷隆盛は、翌年に私学校を設立。さらに明治8（1875）年、吉野台地の寺山に開墾社を設けた。開墾社には西郷とともに戻った旧陸軍教導団生徒などが中心に集まっており、昼間は農作業に従事し、付近一帯の約39haを開墾。夜間は学問に励む場となっていた。西郷も訪れては生徒らとともに農作業をして、収穫物を自宅へと持ち運んだ。

○所在地：鹿児島市吉野町 ○アクセス：JR鹿児島中央駅から車で約30分、寺山自然遊歩道入口（寺山ふれあい公園側）から徒歩約5分 ○駐車場：100台（寺山ふれあい公園）



3 高須港

高須川沿いにある田中邸が、この地を西郷が訪れた際に立ち寄る家であったという。その際に西郷が利用したと伝わる手水鉢などは、霧島ヶ丘公園内の茶室に展示されている。明治10（1877）年2月2日、私学校生徒らの暴発の報を前日に聞いた西郷は、港町である高須を経由して鹿児島島に戻る。少しでも早く帰ることが必要だったので、次の日の早朝には高須を後にし、2月3日の午前9時には鹿児島島の武の自邸に到着している。

○所在地：鹿屋市高須町 ○アクセス：桜島港から車で約45分 ○駐車場：あり

「城山での籠城と西南戦争の終焉・西郷隆盛の死」

16 西郷隆盛洞窟



城山の中腹に位置する洞窟で西郷軍の本営が一時おかれた場所。連日のように加えられる官軍の砲火に対し、西郷軍は塹壕や洞窟を掘り籠城の姿勢をとった。9月24日の政府軍による総攻撃の際、この洞窟より西郷は、敵陣方面へと城山を下ったとされる。

○所在地：鹿児島市城山町
○アクセス：カゴシマシティビュー・まち巡りバス西郷洞窟前下車すぐ ○駐車場：なし

19 岩川官軍墓地



この墓地には、大隅半島の中北部で戦闘が激化した7月からの官軍側の戦死者が埋葬されている。特に官軍側に不利な戦闘となった百引村(現鹿屋市)での戦いで亡くなった者と、戦闘の行われた日だけではなく都城にあった官軍側の病院で亡くなった者が多い。鹿児島県内で官軍側の墓地が今も整備された状況であるのは珍しい。

○所在地：曾於市大隅町岩川 ○アクセス：曾於弥五郎ICから車で約5分 ○駐車場：なし

15 西南戦争官軍本営跡



現在の鹿児島市役所本館付近には、西南戦争当時には米などを貯蔵する大きな石蔵が並んでいた。明治10(1877)年9月1日に、城山に入った西郷軍は防衛線を敷き籠城する。石蔵周辺には官軍が展開していたが、これを急襲すべく、西郷軍幹部の貴島清らが9月4日の夜中に攻撃を開始し激しい戦闘が行われた。しかし、西郷軍側に多大な犠牲者が出て、作戦は失敗に終わる。

○所在地：鹿児島市山下町
○アクセス：鹿児島市電市役所前電停から徒歩約5分
○駐車場：なし

18 南洲墓地(西郷隆盛の墓)



西南戦争で亡くなった西郷軍の2023人が葬られる墓地。西郷隆盛を中心に749基の墓石が整然と並ぶ。元々ここは浄光明寺という寺があったが、文久3(1863)年の薩英戦争の際には建物などに被害を受けており、城山の戦いの後、西郷隆盛や桐野利秋らの検死場所となった。その後仮埋葬され、明治12(1879)年になると、西郷軍の戦死者の遺骨などが集まるようになり現在に至る。明治13(1880)年には隣接地に南洲神社が建立された。

○所在地：鹿児島市上竜尾町 ○アクセス：カゴシマシティビュー・まち巡りバス南洲公園入口下車すぐ。 ○駐車場：あり

14 西南戦争薩軍本営跡(ドン広場)



9月1日、九州山地を越えてきた西郷軍は、鹿児島に入り城山に籠城する。鹿児島城は慶長7(1602)年、島津家18代当主家久によって築城され、その後藩主の居城であり、廃藩置県後となる明治6(1873)年には本丸が火事によって焼失。翌年の6月には、明治政府から下野してきた西郷らが、城の御殿跡に私学校を設立した場所でもあった。官軍は最終的には約5万人の兵で約300人の西郷軍を囲み攻撃を重ねた。現在でも城の石堀には弾痕が無数に残る。

○所在地：鹿児島市城山町 ○アクセス：カゴシマシティビュー・まち巡りバス城山下車徒歩約1分 ○駐車場：あり

17 西郷隆盛終焉の地



明治10(1877)年9月24日未明に始まった政府軍の総攻撃により、城山に立て籠もっていた西郷隆盛らは、山から下り始めた。その後、岩崎谷に差し掛かるのと銃弾にさらされ、西郷も歩行困難となり、この碑の近くで別府晋介の介錯により亡くなった。明治32(1899)年に石碑が建立された。

○所在地：鹿児島市城山町 ○アクセス：カゴシマシティビュー・まち巡りバス薩摩義士碑前から徒歩約5分。 ○駐車場：なし



7 水俣の西南戦争戦闘地



熊本県南部の水俣には、西郷軍の背後につくため官軍が上陸し、大口方面へと進軍した。それを阻止すべく、辺見十郎太率いる雷撃隊などが官軍と激しい戦闘を展開した。水俣市と伊佐市を結ぶ現在の国道268号沿いにあたる深川や久木野といった地域では、両軍ともに多くの犠牲者を出し、当時を偲ばせる史跡も数多く点在している。写真は西郷軍の犠牲者を慰霊した記念碑で、かつての水俣城跡に建つ。

○所在地：熊本県水俣市
○アクセス：JR新水俣駅から車で約5分 ○駐車場：あり

10 涙橋血戦の碑



6月に官軍は、海軍力を生かして鹿児島を制圧していた。その鹿児島を奪還するために枕崎を中心とした部隊が北上して、鹿児島南部の新川沿いで官軍と激しい戦闘となる。6月24日、火力に頼る官軍と太刀による戦いを挑む枕崎の部隊との間で新川が血に染まるほどの戦いとなったが、6時間ほどの激戦の後に官軍側が勝利した。枕崎の部隊は約90名の死者を出すほどの激しさであったが、投降者はひとりもいなかった。石碑の文字の決戦が血戦と表わされているのはそのためである。

○所在地：鹿児島市都元町 ○アクセス：鹿児島市電涙橋電停から徒歩約5分 JR南鹿児島駅から徒歩約10分 ○駐車場：なし

13 南洲翁宿営之跡の碑



九州山地を越えた西郷らが吉松に入ったのは8月29日のことで、そこでは山口重兵衛の家に宿泊している。その後、鹿児島を目指す西郷らが踊(現在の霧島市牧園町)に入ったのは8月30日の暮れのことであった。その際に逗留したのが前田万兵衛氏の家で、この碑が建つ場所にあった。周辺に官軍が迫るなかでもあり、この日の深夜には闇夜へ紛れるように出発した。8月31日には、溝辺経由で山田(始良市)に入り、その麓で一休休憩、その際に腰掛けたという石が残されている。その後蒲生に入り、9月1日の午前3時頃に蒲生を出て城山を目指すことになる。

○所在地：霧島市牧園町
○アクセス：JR霧島温泉駅から徒歩すぐ ○駐車場：なし

6 田原坂



「雨は降る降る人馬は濡れる越すに越されぬ田原坂」と地元の民謡に歌われる西南戦争の激戦地。緩やかな坂道が続く三池街道沿いにあたり、熊本城に向かう政府軍を坂上から西郷軍が迎え撃つ。3月4日から20日まで、昼夜を問わず戦闘が続くが西郷軍は撤退。近くの高瀬や吉次峠でも激しい戦闘が繰り広げられた。

○☎：096-272-4982 ○所在地：熊本市北区植木町豊岡858-1(熊本市田原坂西南戦争資料館) ○定休日：12月29日～1月3日 ○利用可能時間：9時00分～17時00分(入館16時30分まで) ○アクセス：JR田原坂駅から徒歩約30分

9 高熊山



西郷軍の主力部隊が、宮崎方面へと向かう頃に、辺見十郎太を中心とした雷撃隊は、水俣方面から進撃する官軍を迎えるため高熊山を中心にして堡壘を構築した。この山を中心に激戦となったのは6月13日のことで、官軍側はアームストロング砲などを用いて砲火を山頂へと浴びせた。辺見らは銃弾のみならず、巨石などを転ばせて応戦したが、物量に勝る官軍には勝てずに辺見もこの地を去った。伊佐市には辺見が号泣しながら松の木のもとで、敗れた高熊山を振り返ったという場所もある。また高熊山山頂の巨石には、無数の弾痕跡が残り、戦闘の激しさを物語っている。

○所在地：伊佐市大口千尾
○アクセス：栗野ICから車で約45分 ○駐車場：あり

12 和田越決戦記念碑



延岡まで追い詰められた西郷軍は、8月15日に南側から迫る官軍と小高い丘が連続する和田越にて戦闘を開始する。この戦いでは、西南戦争開始後初めて西郷隆盛自らが指揮を執った。午前7時に戦闘が開始され、午後3時には西郷らは戦場から退却することになる。翌日には全軍解散を決定し、17日の夜には鹿児島を目指して西郷らは、可愛岳の山中へと姿をくらますことになる。

○所在地：宮崎県延岡市稲葉崎町
○アクセス：JR延岡駅から車で約10分 ○駐車場：なし

5 熊本城



「日本三名城」のひとつとされ、加藤清正によって慶長12(1607)年に築城と伝わる。西南戦争の際には、熊本鎮台司令長官・谷干城少将と3400名余りの将兵が籠城し、北上する西郷軍と対峙した。明治10(1877)年2月22日に、西郷軍は城の攻撃を開始した。しかし、4月14日には政府軍が熊本城に入城し、ついに西郷軍は落とすことはできなかった。

○所在地：熊本県熊本市中心区本丸1-1 ○アクセス：交通センターから徒歩約5分 花畑町電停から徒歩約5分 熊本城・市役所前電停から徒歩約3分

8 人吉城跡



熊本北部での戦闘に敗れた西郷軍は、南部へと敗走。4月後半には人吉に入る。この地は最初に鹿児島から熊本城を目指す際にも訪れた地であり、人吉城や町並みなどから長期の滞在に適した地域と考えられた。本営は永国寺におかれ、西郷も近くの民家を宿所とした。桐野利秋はこの地で2年は持ちこたえたと豪語していたが、官軍の素早い南下に人吉城を中心にした西郷軍の布戦も続かず、6月1日には人吉は制圧された。約1か月の滞在であった。

○所在地：熊本県人吉市麓町
○アクセス：JR人吉駅から車で約5分 ○駐車場：あり

11 西郷軍の堡壘跡



現在の霧島市牧園町は、西南戦争時には踊と呼ばれていた。この周辺が戦場となったのは7月1日に、隣接する横川の西郷軍が官軍側との戦闘に敗れて踊麓が拠点となってからである。水俣から大口を経由して進撃する官軍に対抗するために、西郷軍は街道沿いなどの要所に堡壘(敵の攻撃を防ぐために、土等で構築された陣地)を無数に築いた。7月9日には、この地域の戦闘でも官軍が圧倒した。また周辺では、西郷隆盛が鹿児島へと敗走してくる8月30日にも、それを追う官軍との間で戦闘が行われている。

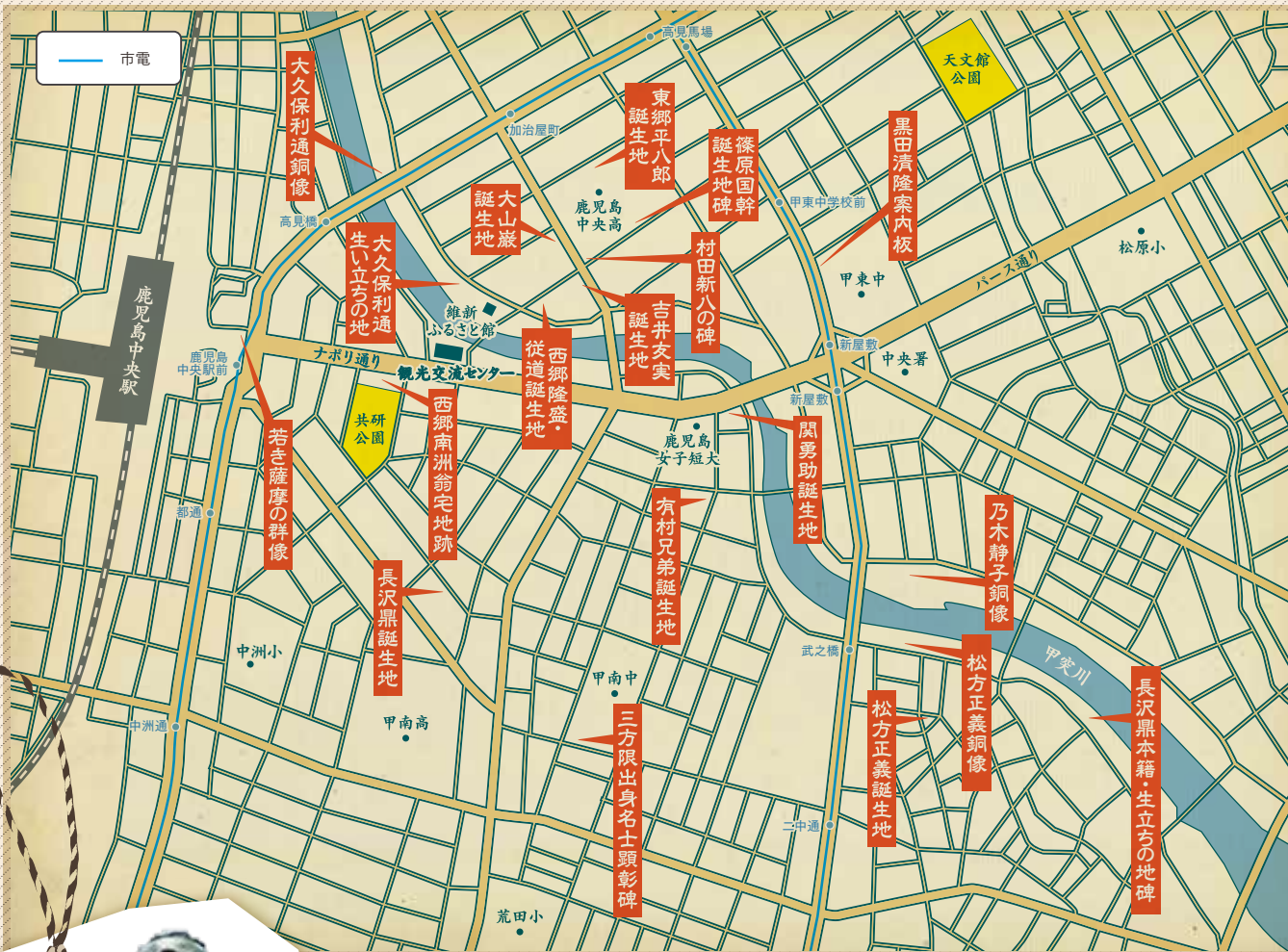
○所在地：霧島市牧園町 ○アクセス：JR霧島温泉駅から車で約5分 ○駐車場：なし

「熊本、宮崎、鹿児島で繰り広げられた戦いと西郷軍の敗走」

鹿児島城下では、武士の居住地は大きく上方限、下方限に分けられていた。西郷が生まれ育った下加治屋町周辺は下方限に属し、身分の低い武家が多く暮らしていた。

鹿児島城下に住む薩摩藩士の子弟は、居住地である郷中(町内)ごとに、年上の者が年下の者を指導する地域性の高い「郷中教育」が行われていて、西郷と同時代に活躍した多くの人物もこの教育のもと育ったことになる。

偉人を多く輩出した加治屋町 加治屋町周辺マップ



盟友でありライバル 大久保利通

西郷とともに「維新の三傑」と称される。天保元(1830)年に高麗町に生まれるが、西郷の住む下加治屋町に引越して同じ郷中で成長。父の次右衛門は琉球館勤務。母方の祖父は皆吉鳳徳という学者であった。若い頃は正助、後に一蔵と名乗る。

島津斉彬の下では御徒目付、島津久光が実権を持つと、その下で頭角を現し、西郷が奄美諸島に配流されている際に、着実に藩政を動かすほどの実力を付けていった。元治元(1864)年、西郷が沖永良部島から召還されると、共に数々の難局を克服していく。明治政府では西郷と共に参議として新政府の基盤整備に取り組むが、朝鮮半島への使節派遣問題で意見を違え、西郷が明治政府を離れる原因となる。その後、内務卿として国内の様々な事業を展開するが、西南戦争の翌年の明治11(1878)年、東京の紀尾井坂において暗殺された。

加治屋町をのぞむ位置、高見橋のたもとに昭和54(1979)年、没後100年を記念して建てられた。

西郷隆盛を取り巻く人々

西郷と共に学んだ友、西郷を見出した君主、一緒に明治維新を成し遂げた人物…西郷隆盛の人生はまさに波乱万丈ですが、彼らもまた幕末、明治維新を生き抜いた人々でした。

生涯の主君 島津 斉彬

若き西郷を見出し、また西郷の人生において最も影響を与えたといえる人物。文化6(1809)年に江戸藩邸において島津斉興と正室周子の長男として生まれる。育ちも江戸で、蘭学などへの見識の広い曾祖父の島津重豪の感化を受けて育つ。42歳となる嘉永4(1851)年によろやく藩主となつてからは、富国強兵・殖産興業の政策に着手する。それは日本に迫る外国の脅威に対抗するものであり、後に集成館事業と名付けられ、大砲製造や洋式軍艦建造や紡績など多岐にわたる。

安政元(1854)年の江戸参勤の列に西郷は加えられ、江戸にて庭方役を命じられる。さらに安政3(1856)年に西郷は初めて、斉彬の御前に召し出され、密室にて問答を受ける。その後は斉彬から密書を受け取り、水戸や福井の藩主に届ける任務を担う。しかし斉彬は安政5(1858)年7月16日、幕政改革を果たそうとした夢の途中で死亡。

その思いは「順聖院様御深志」として西郷はもちろん、弟であり国父として薩摩藩を束ねる島津久光らに受け継がれていくことになる。

注) 順聖院とは斉彬の戒名



島津斉彬を祀る照國神社境内に大正6(1917)年に建てられた。土台が事跡を刻んだレリーフで飾られている。

photo: SHIMADZU NARIAKIRA



○所在地:鹿児島市吉野町 ○アクセス:JR鹿児島中央駅から車で約30分、寺山自然遊歩道入口(鶴丸公園側)から徒歩約5分 ○駐車場:あり

寺山炭窯跡

明治8(1875)年に西郷が吉野開墾社を開いた場所は、斉彬が大型の炭窯を築かせた場所の近くだった。大砲製造に必要な反射炉で銃鉄を溶かす際、強い火力を必要とするため紀州(和歌山)の技術を導入するなどして良質な木炭の量産が図られた。



○所在地:鹿児島市照國町 ○アクセス:JR鹿児島中央駅から車で約10分 ○駐車場:あり

照國神社

文久3(1863)年、斉彬は生前の功績を認められ「照國大明神」の神号が孝明天皇より授けられた。そして翌年照國神社が建立されている。隣接地には島津斉彬・島津久光・島津忠義の三公銅像が建つ。



名勝 仙巖園

斉彬は島津家の別邸であった仙巖園の隣接地に工場群「集成館」を築いた。この集成館事業は、西欧諸国の船が頻繁に日本近海へ出現していたことや天保11(1840)年のアヘン戦争で清がイギリスに敗れたことなどを受け、危機感に迫られてのことであったが、軍事の近代化だけでなく、紡績事業、ガラス製品や薩摩焼の改良などの輸出品の開発、農業振興にも及んでいたことが特徴である。斉彬はさまざまな産業を興し日本が豊かになってこそ外国と肩を並べることができるようにと考え、この遺志は明治政府に引き継がれた。平成27(2015)年、集成館を含む遺産群が自力による急速な近代化を示す遺産として「明治日本の産業革命遺産」の名で世界文化遺産に登録されている。

○所在地:鹿児島市吉野町 ○アクセス:JR鹿児島中央駅から車で約20分、JR鹿児島駅から車で約5分 ○駐車場:あり

しまづ ひさみつ 島津久光 と しまただよし 島津忠義



photo: SHIMADZU HISAMITSU

照國神社に隣接する探勝園に建つ。

島津久光は文化14(1817)年に島津斉興と側室お遊羅の子として鹿児島で生まれ、若くして重富島津家に養子に入る。島津斉彬が死去すると、久光の子の茂久(忠義)がその後を継ぐが、安政6(1859)年に島津斉興が亡くなると、本家に復帰して国父として藩政の実権を握ることになる。西郷とは微妙な関係にあり、命に背く西郷を冲永良部島まで流したり、西郷らの維新の改革に対して不満を抱いたり、西郷を悩ませ続けた。保守的な面が強いものの、久光の決断なくして薩摩藩一体としての行動はありえず、明治政府も久光を気遣い続けた。明治20(1887)年死去の際は、国葬が行われた。

島津忠義は島津家第29代当主にして最後の藩主。天保11(1840)年に島津久光の長男として誕生し、安政5(1858)年12月に島津斉彬の遺言により藩主に就任する。父である久光の後見を受けながら藩政を指揮し、斉彬の遺志を受け継ぐべく集成館事業を再開するなどした。朝廷・幕府・他藩との駆け引きや工作には、西郷らを起用し、長州藩とともに明治維新における主導権を握る。西郷らによる西南戦争の際には中立を守った。明治30(1897)年12月26日没。



大河ドラマ
西郷どん
撮影地

旧島津氏玉里邸庭園

島津斉彬と久光の父・島津斉興が作った別邸。久光は特に晩年となる西南戦争以降はここを改築し過ごした。

○所在地：鹿児島市玉里町 ○アクセス：JR鹿児島中央駅から車で約15分 ○駐車場：あり



重富島津家別邸跡

領地である重富にある屋敷跡で、現在の重富小学校。ここに残る石垣などは、戦国期に島津義弘によって構築されたもので、当時は平松城と呼ばれていた。周辺には久光が当主だった頃を偲ばせる町並みが残る。

○所在地：始良市平松 ○アクセス：JR重富駅から車で約5分 ○駐車場：なし



福昌寺跡

島津本家の菩提寺で薩摩藩で最大の寺院だった。歴代当主の墓が立ち並び、島津斉彬や斉興などの墓もある。島津久光の墓所は、そのなかでも一番大きく、明治初年の廃仏毀釈で廃寺となってから、神式で祀られた為、入口に鳥居が建っている。

○所在地：鹿児島市池之上町 ○アクセス：JR鹿児島中央駅から車で約20分 ○駐車場：なし



旧鹿児島紡績所技師館(異人館)

海外貿易の点から紡績事業の重要性に着目した薩摩藩では、日本初の洋式機械紡績工場・鹿児島紡績所を建設。異人館はイギリスから招かれた技師7名の宿舎として建設された。のちの西南戦争時には西郷軍の仮病院にも利用された。

○所在地：鹿児島市吉野町 ○アクセス：JR鹿児島中央駅から車で約20分 ○駐車場：あり



今和泉島津家別邸跡

篤姫の実家・今和泉家の領地は今和泉郷(現指宿市)にあり、現在の今和泉小学校の敷地に別邸があった。観音崎から南にかけての海岸には、今も松の太木をみることができ、特に今和泉小学校付近のものは集人松原の名で知られている。篤姫の父・島津忠剛の時代、弘化元(1844)年には、当時の家老調所広郷によって別邸付近を通過する街道(谷山筋)の本格的開削が行われ、今和泉島津家は協力している。現在今和泉小学校横の海岸に、少女時代の篤姫を表現した像も建てられている。

○所在地：指宿市岩本 ○アクセス：JR薩摩今和泉駅から徒歩約10分 ○駐車場：あり



園林寺跡(小松帯刀の墓)

園林寺は小松家の菩提寺で、小松帯刀もここに眠っている。

○所在地：日置市日吉町 ○アクセス：JR伊集院駅から車で約20分 ○駐車場：あり(5台)



原良別邸跡(お茶亭跡)

江戸時代、付近は畔畔と呼ばれる景勝地であった。

○所在地：鹿児島市原良町 ○アクセス：JR鹿児島中央駅から車で約20分 ○駐車場：なし

天保6(1835)年に喜入領主の肝付家に生まれる。安政2(1855)年に吉利領主の小松家へ養子に入り、帯刀清廉と名を改める。幼少期から学問を好み、島津久光の下で文久元(1861)年に側役になり、翌年には家老となり藩政に大きく関与する。西郷や大久保らと連携を取りながら、幕末の難局を乗り越え活躍するが、体調がすぐれずに明治3(1870)年、大阪で病気で亡くなる。幻の宰相とも称され、明治政府内での活躍も期待されていた。

てんしょう いん あつひめ 天璋院(篤姫)

天保6(1835)年に今和泉島津家に生まれる。嘉永6(1853)年に藩主島津斉彬の養女となり、その後13代将軍徳川家定の御台所となる。西郷は、その婚禮の際の嫁入り道具を揃える役割を担ったという話がある。また、次期将軍の継嗣に一橋慶喜を推挙していた島津斉彬の命を篤姫付き女中頭の幾島に伝達したのも西郷である。慶応4(1868)年には、江戸城総攻撃を前にした西郷に宛てて徳川家存続の嘆願書を送っている。



photo: TENZOIN-ADACHI-NO-HIME

まつ たてわき 小松帯刀



photo: KOMATSU TATEWAKI

小松帯刀と西郷隆盛がちょうどお互い見える位置に建っている。西郷隆盛銅像は亡くなった城山の麓、小松帯刀像は、小松家の屋敷地に近い場所というゆかりから。

日置島津家の

かつらひさたけ あか やま ゆき え 桂久武と赤山靱負



桂内集落

桂久武は、慶応3(1867)年から家臣を開拓に従事させ、周囲約8キロに及ぶ地域を開墾させた。集落にはそれを偲ばせる石碑がある。

○所在地：霧島市霧島田口 ○アクセス：JR霧島神宮駅から車で約5分 ○駐車場：なし



桂山寺跡(赤山靱負の墓)

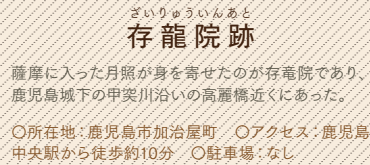
日置島津家の菩提寺のひとつが桂山寺で、現在は廃寺となり墓だけが残る。

○所在地：日置市日吉町日置 ○アクセス：JR伊集院駅から車で約15分 ○駐車場：なし

日置島津家は日置郷(現在の日置市)を治める島津家分家のひとつである。西郷の父吉兵衛は日置島津家の次男家である赤山家の御用人を勤めていた。西郷も父と共に出入りしていたと考えられる。お遊羅騒動に際して切腹を命じられた赤山靱負の血染めの肩衣は、西郷に渡されたというエピソードもあり、その親密さが伺える。

赤山の弟である桂久武は、西郷と年齢も近く、文久2(1862)年に桂が奄美大島に赴任した際には西郷が島に残してきた愛加那などの世話を依頼している。西南戦争の際には、西郷と共に城山の戦いまで従軍し、同じ日に亡くなっている。

人物相関図



月照 げっしょう

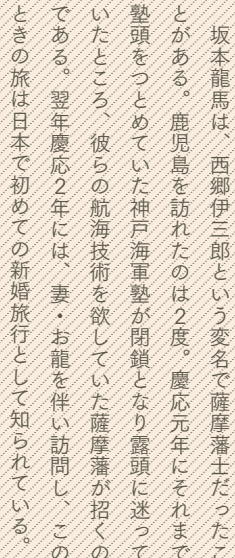
日本警察の父



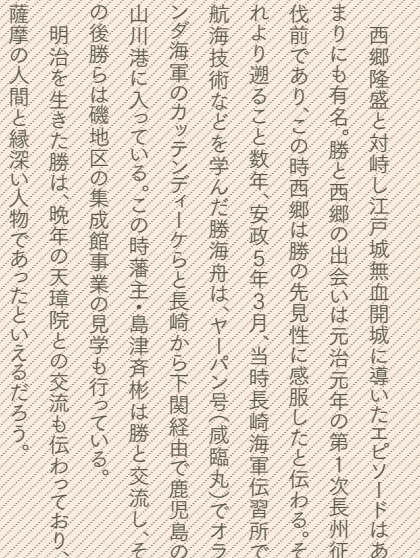
最期は西郷とともに

○所在地：鹿児島市吉野町実方
○アクセス：鹿児島中央駅から車で約25分、バス停実方より徒歩約1分 ○駐車場：なし

日本初の新婚旅行



江戸から明治を駆け抜けた



日本全国で活動した西郷隆盛

西郷隆盛の行動範囲は、北は北海道から南は沖縄県まで全国に及んでいます。安政元（1854）年に藩主・島津斉彬の江戸参勤に従い初めて薩摩藩の外に出たことから始まり、斉彬の命で他藩へ赴いたり京都での工作を行ったりしました。元治元（1864）年に復帰してから京都を中心に活動。薩摩藩は幕末期には多くの蒸気船を所有しており、西郷もこれを利用して短期間での長距離移動も可能となりました。



庄内

南洲神社

全国の南洲神社のうちで一番北に位置している（他は鹿児島市、都城市、奄美市、和泊町にある）。鹿児島市にある南洲神社から分霊して昭和51（1976）年に建立された。この地に西郷が祀られているのは戊辰戦争に由来する。明治元（1868）年、新政府軍に抵抗し続けた庄内藩を攻撃するべく山形に西郷は到着。庄内藩は前年に江戸の薩摩藩邸を焼打ちにするなど薩摩藩にとっては最も敵対する藩のひとつであったが、降伏する庄内藩に対して黒田清隆を通じて寛大な処置を指示した。このことから、旧庄内藩士と西郷の交流が始まり、彼らによって明治23（1890）年に「南洲翁遺訓」が発行される。現在神社がある酒田市と同じく庄内藩だった鶴岡市は鹿児島市と交流を行っている。



江戸

薩摩藩三田屋敷跡

江戸においての薩摩藩主が暮らす上屋敷。安政元（1854）年3月に初めて江戸入りし、西郷が滞在した屋敷でもある。ここで西郷は庭方役となり、後に島津斉彬に召し出されて他藩主らと交流するなどの活躍をみせる。慶応3（1867）年12月には、旧幕府・庄内藩士らの攻撃を受けて焼打ちされる。この出来事がきっかけとなり、島羽・伏見の戦いに発展する。



江戸

「西郷・勝会見の地」記念碑

明治元（1868）年3月、西郷は東征大総督府下参謀として江戸城総攻撃を行うために江戸に入る。それ以前から勝海舟は手紙において徳川処分に関する条件を打診していた。さらに総攻撃決行が迫ると、直接会談することになり、高輪の薩摩藩邸でも会見は行われた。この碑が建つ場所は薩摩藩の田町蔵屋敷のあった場所とされ、ここでも会見があったとされるため記念碑が建つ。勝との2回の会談によって江戸城総攻撃は中止の方向へ動くことになる。碑の正面の揮毫は、西郷の孫にあたる西郷吉之助によるもの。

箱館（函館）
明治2（1869）年5月
戊辰戦争の応援にかけつけるが到着したときにはすでに戦いは決していた

SHONAI ● **庄内**

KASHIWAZAKI ●

江戸
● EDO

岩国

元治元（1864）年11月
長州処分解決のため
吉川経幹と会談

京都

二本松薩摩藩邸跡

京都における薩摩藩邸は錦小路にもあったが、文久2（1862）年に面積5805坪という広大な敷地の藩邸が誕生した。御所警護の目的もあり、京都御所の北西角すぐの場所で現在は同志社大学が建つ。幕末における様々な出来事は、この藩邸を拠点として行われた。西郷の京都における屋敷はこの近くにあったとされる。この他、京都には清水寺や東福寺、清閑寺など西郷の足跡が残る場所が多くある。



防府

慶応3（1867）年10月
毛利公に会うため三田尻港に入る

大坂

OSAKA ●

KYOTO ●

FUSHIMI ●

伏見

高知

慶応3（1867）年2月
土佐藩主・山内容堂に謁見し上京を促す



大坂

薩摩藩蔵屋敷跡

全国の米が集積する大坂における藩の蔵屋敷は、水運に便利な土佐堀川沿いにあった。周辺には長州藩などの蔵屋敷も並んでいて、年貢米や特産品が各藩から集められ賑わう場所であった。大坂の薩摩藩蔵屋敷には西郷と親しい人物が勤めていた。ひとりが坂本龍馬のお龍と霧島への新婚旅行にも同伴した吉井友実。もうひとりが奄美時代から親しい仲であった木場伝内である。西郷も蔵屋敷を度々訪れ、本国と京都などへ向かう際の拠点にしていた。

山口

慶応3（1867）年10月
小松帯刀らと共に長州藩主毛利敬親父子に拝謁

下関

SHIMONOSEKI ●

DAZAIFU ●

長崎

NAGASAKI ●

熊本

安政4（1857）年11月
大久保正助（利通）を伴い長岡監物を訪問

宇和島

慶応3（1867）年2月
宇和島藩主・伊達宗城に謁見し上京を促す

伏見

薩摩藩邸跡

伏見藩邸は、参勤交代の際に藩主らが宿泊することも目的としていた。嘉永6（1853）年には、篤姫が京都に向かう際、この藩邸に宿泊している。また、慶応2（1866）年1月に寺田屋で幕府役人から襲撃された坂本龍馬を匿ったのもこの藩邸である。現在、石碑の建つ場所周辺には、伏見らしく酒造工場や運河がある。



伏見

薩摩藩邸跡

伏見藩邸は、参勤交代の際に藩主らが宿泊することも目的としていた。嘉永6（1853）年には、篤姫が京都に向かう際、この藩邸に宿泊している。また、慶応2（1866）年1月に寺田屋で幕府役人から襲撃された坂本龍馬を匿ったのもこの藩邸である。現在、石碑の建つ場所周辺には、伏見らしく酒造工場や運河がある。

下関

白石正一郎旧宅跡

白石正一郎は、小倉屋という屋号で下関の竹崎浦を拠点とし、萩藩の支藩である清末藩の御用商人であった。嘉永7（1854）年に国学者である鈴木重胤の門人となり、尊王思想に心酔する。このことから西郷ともつながり、小倉屋は薩摩藩との貿易関係を密にしている。また、白石は高杉晋作の奇兵隊にも資金を提供している。幕末に志士と呼ばれる人々が活動するためには、このような商人の後ろ楯が必要であった。



太宰府

延寿王院

太宰府天満宮と隣接する寺院に、西郷は慶応元（1865）年2月に村田新八らと訪れている。それは文久3（1863）年8月に京都から追放され、長州藩と行動した尊皇攘夷派の公家である三条実美らの待遇改善のためである。公家らはこの時に当寺に入り、西郷らも面会している。後に三条実美と西郷は、共に新政府で重要な役割を担うことになる。



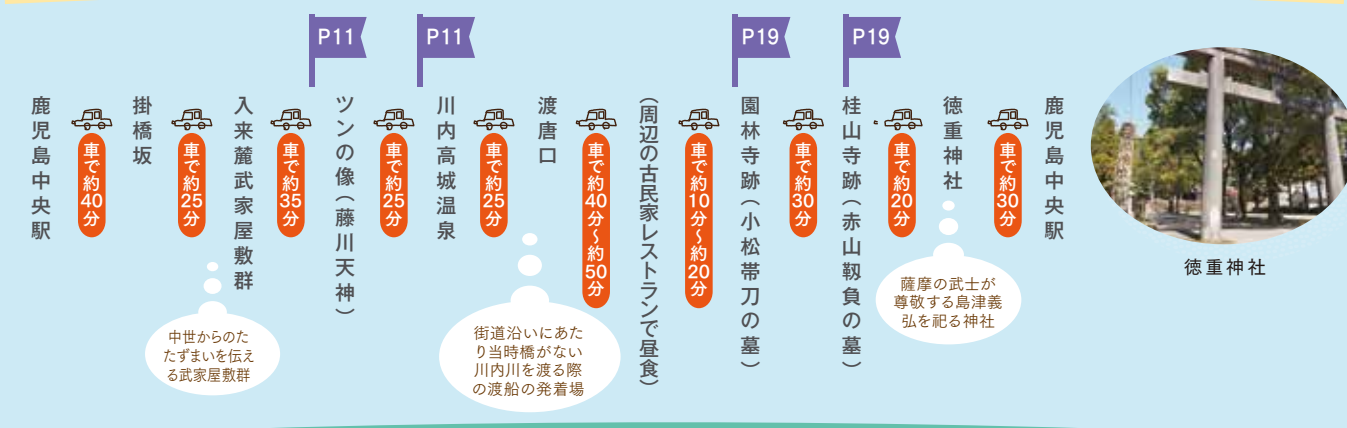
長崎

長崎薩摩藩蔵屋敷跡

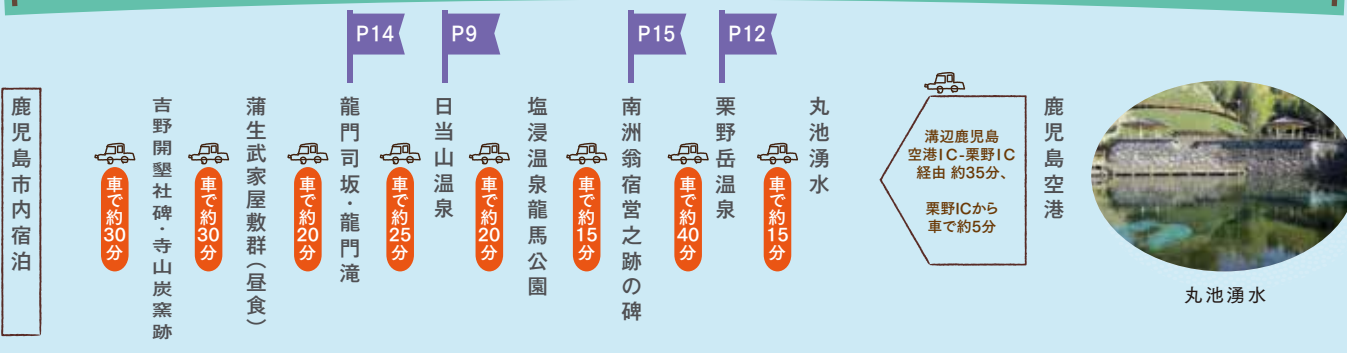
長崎市の中馬街近くの繁華街にある。天領である長崎に、西国の各藩は長崎奉行と連携して警護などのための専用の蔵屋敷を有していた。薩摩藩の蔵屋敷の隣接地には、指宿の豪商である浜崎太平次の長崎支店もあった。西郷がこの地に足を踏み入れた記録はないが、慶応元（1865）年4月と慶応2（1866）年3月に、坂本龍馬も乗船した藩船で長崎を訪れた史料はある。その際には、この蔵屋敷にも立ち寄ったのではないかと考えられる。また、明治5（1872）年6月14日には、明治天皇の西国行幸に同行した際にも、長崎を訪れている。



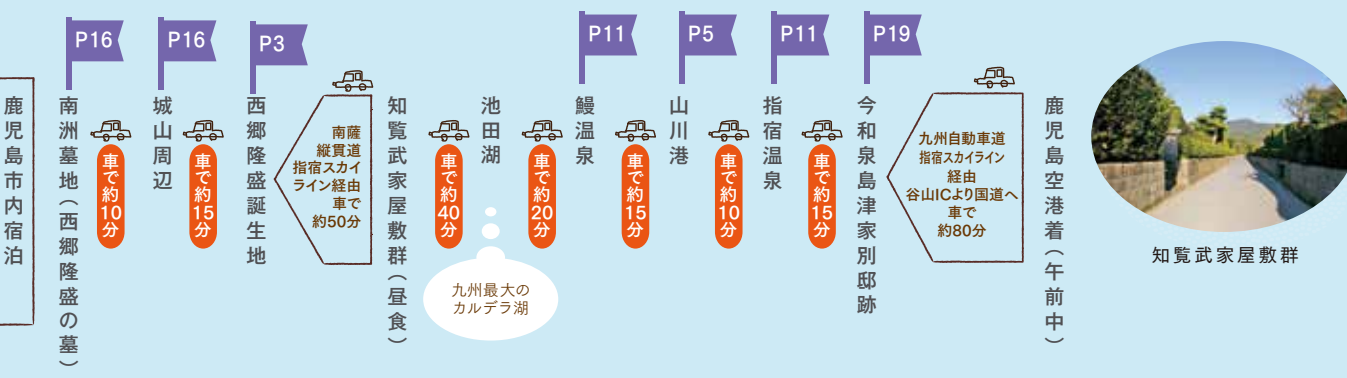
西郷隆盛も歩いた薩摩街道沿い薩摩半島中・北部コース



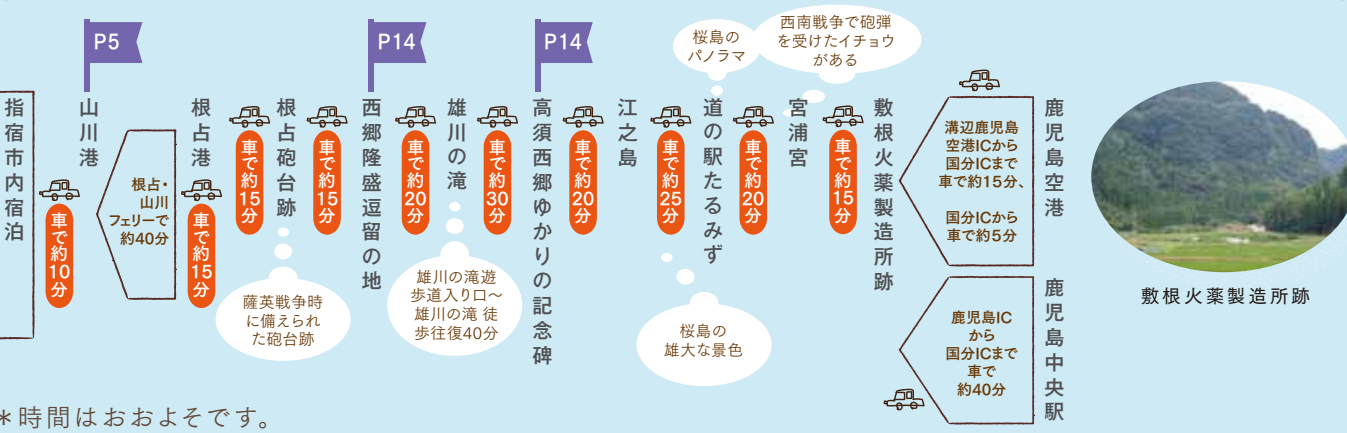
西郷隆盛“湯”かりの温泉めぐりコース



西郷隆盛出港の山川を訪ねる薩摩半島南部コース



西南戦争直前の西郷隆盛をたずねる大隅半島コース



*時間はおおよそです。

西郷ゆかりの地 マップ

西郷の足跡をテーマに

鹿児島をめぐって

みませんか。

ゆかりの地は

各地に点在

しています。



西郷隆盛年表

和暦	西暦	月日	年齢	西郷隆盛　薩摩藩の動き	全国・世界の動き
文化6	1809	9月28日		島津斉彬生まれる	
文政10	1827	12月7日	1	鹿児島城下、下加治屋町に生まれる	
天保6	1835	6月		斉彬初めて鹿児島に入る	
天保8	1837	7月		篤姫、小松帯刀生まれる	
天保12	1841		15	アメリカ船モリソン号が山川沖に来航（モリソン号事件）	
弘化元	1844		18	元服、吉之助隆永と称す	
弘化3	1846		20	藩の郡方書役助となる	
弘化4	1847			下加治屋町郷中の二才頭となる	
嘉永元	1847			鑄製方を設置し、青銅砲鑄造を始める	
嘉永2	1849			砲術館の開設	
嘉永4	1851			調所広郷芝藩邸にて没する	
嘉永5	1852		26	嘉永朋党事件（高崎崩れ・お遊羅騒動）	
安政元	1854	3月		斉彬、藩主となる。製煉所を設け、反射炉雛形を作るなど集成館事業開始	6月　浦賀にペリー来航
安政2	1855	3月		祖父龍右衛門、父吉兵衛、母マサが相次いで死去	
安政3	1856	4月	31	妻スガを迎える	
安政4	1857	10月1日	32	篤姫、島津家本家斉彬の養女となる。鹿児島を発ち江戸の薩摩藩邸に移る	
安政5	1858	10月1日		反射炉2号炉が完成	
		12月下旬		徒目付（庭方兼務）となる	
		11月16日		将軍継嗣問題で江戸・京都を奔走	
		10月6日		斉彬、山川入港中の咸臨丸を視察	
		9月		鹿児島に帰り斉彬に状況を報告	4月23日　井伊直弼大老に就任
		7月27日		斉彬の命により福岡藩主黒田斉博の元へ向かう	6月19日　日米修好通商条約
		7月16日		島津斉彬死去（50歳）	7月5日　安政の大獄が始まる
		7月		斉彬の死去を知り殉死しようとする	7月6日　将軍家定死去。その後、篤姫落飾して天璋院となる
		9月		月照を薩摩に逃そうと京都を出発	
		10月6日		西郷のみ鹿児島に入る	
		11月16日		月照とともに錦江湾に入水。西郷のみが助かる	
		12月下旬		菊池源吾と変名し、奄美大島へ向け鹿児島を出発	
安政6	1859	1月	33	山川港を出航し奄美大島へ向かう	
万延元	1860	1月12日		奄美大島阿丹崎に到着	
文久元	1861	11月8日	34	愛加那と結婚	3月3日　桜田門外の変
文久2	1862	1月2日	35	長男菊次郎誕生	
		1月14日	36	召還命令により奄美大島を出帆	
		2月17日		指宿二月田の温泉で休養	
		3月13日		島津久光の命により村田新八とともに鹿児島を出発	
		4月6日		下関で待機との命に従わなかったため捕縛が命ぜられる	
		4月23日		寺田屋事件	
		6ゝ閏8月		奄美大島經由で徳之島へ配流	8月21日　生麦事件
		閏8月14日		沖永良部島伊延港に到着	9月21日　朝廷攘夷を決定
文久3	1863	10月	37	和泊の座敷牢に入る	3月　新撰組結成
		7月2日		薩英戦争おこる	5月10日　長州藩下関で外国船に砲撃
		10月		薩摩藩イギリスと和解	8月　八月十八日の政変
元治元	1864	12月		長崎丸事件	10月11日　生野の変
		1月13日	38	島津久光・朝議参与に命じられる	3月　フランス公使・ロッシ来日。／天狗党の乱
		2月21日		沖永良部島から召還される	5月　神戸海軍操練所設立
		3月19日		京都において軍賦役に就任	6月5日　池田屋事件
		6月		開成所開設	8月5日　四国艦隊下関砲撃
		7月19日		禁門の変（蛤御門の変）に参戦	
		9月15日		大坂で勝海舟と会見	
		11月3日		第一次長州戦争の征長軍参謀として岩国に入り交渉する	
慶応元	1865	1月28日	39	岩山イトと結婚する／小松帯刀と鹿児島を立つ	3月22日　新納刑部・五代友厚・松本弘安らが留学生を率いイギリスへ出発
慶応2	1866	1月21日	40	京都の小松帯刀邸において薩長同盟締結	1月24日　坂本龍馬寺田屋遭難
		3月4日		坂本龍馬らとともに大坂より鹿児島に向けて出帆	6月　第二次幕長戦争
		6月18日		英国公使パークスと鹿児島で面接	7月20日　徳川家茂大坂城で病死
		11月		パリ万国博覧会へ使節が出発／イギリス人技師鹿児島に招聘。紡績工場建設に着手	12月25日　孝明天皇崩御
慶応3	1867	2月16日	41	土佐藩にて山内豊信に拝謁	5月　四候会議決裂
		2月24日		宇和島藩にて伊達宗城に拝謁	
		6月		鹿児島紡績所竣工	
		10月14日		倒幕の密勅を受理	10月15日　大政奉還
		11月		島津忠義藩兵を率いて上京	
		12月25日		江戸薩摩藩邸が焼き討ちされる	12月9日　王政復古の大号令・小御所会議
慶応4	1868	1月3日	42	鳥羽伏見の戦いより戊辰戦争が勃発	3月14日　五箇条の御誓文発布
		3月15日		東征大総督参謀として江戸に入り勝海舟と会談	7月17日　江戸が東京となる
明治元	1868	4月11日		江戸城開城	8月27日　明治天皇即位の大礼をあげる
明治2	1869	9月27日	43	庄内藩に寛大な処置を行う	9月8日　明治に改元
明治3	1870	2月25日		日当山温泉の西郷のもとに藩主島津忠義が来訪	
明治4	1871	2月26日	44	鹿児島藩参政に就任	5月18日　五稜郭開城
明治5	1872	5月25日	45	函館に到着	6月21日　普仏戦争始まる
明治6	1873	7月		鹿児島藩大参事に就任	
明治7	1874	7月18日	46	小松帯刀死去（36歳）	8月3日　学制を頒布
明治8	1875	6月25日	47	新政府において参議となる	9月13日　岩倉使節団帰国
明治9	1876	7月14日	48	廃藩置県の実施	
明治10	1877	5月23日	49	明治天皇の西国巡幸について鹿児島へ向かう	8月3日　学制を頒布
明治11	1878	7月14日		太陽暦の採用により、この日が明治6年1月1日	
明治12	1879	7月23日		陸軍大将兼参議に就任	
明治13	1880	5月10日		朝鮮半島への使節派遣が中止となり、参議の辞表を提出	
明治14	1881	10月23日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治15	1882	11月10日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治16	1883	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治17	1884	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治18	1885	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治19	1886	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治20	1887	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治21	1888	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治22	1889	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治23	1890	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治24	1891	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治25	1892	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治26	1893	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治27	1894	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治28	1895	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治29	1896	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治30	1897	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治31	1898	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治32	1899	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治33	1900	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治34	1901	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治35	1902	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治36	1903	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治37	1904	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治38	1905	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治39	1906	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治40	1907	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治41	1908	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治42	1909	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治43	1910	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治44	1911	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治45	1912	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治46	1913	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治47	1914	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治48	1915	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治49	1916	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治50	1917	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治51	1918	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治52	1919	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治53	1920	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治54	1921	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治55	1922	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治56	1923	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治57	1924	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治58	1925	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治59	1926	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治60	1927	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治61	1928	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治62	1929	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治63	1930	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治64	1931	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治65	1932	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治66	1933	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治67	1934	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治68	1935	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治69	1936	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治70	1937	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治71	1938	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治72	1939	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治73	1940	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治74	1941	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治75	1942	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治76	1943	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治77	1944	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治78	1945	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治79	1946	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治80	1947	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治81	1948	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治82	1949	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治83	1950	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治84	1951	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治85	1952	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治86	1953	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治87	1954	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治88	1955	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治89	1956	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治90	1957	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治91	1958	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治92	1959	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治93	1960	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治94	1961	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治95	1962	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治96	1963	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治97	1964	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治98	1965	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治99	1966	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
明治100	1967	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和1	1926	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和2	1927	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和3	1928	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和4	1929	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和5	1930	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和6	1931	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和7	1932	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和8	1933	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和9	1934	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和10	1935	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和11	1936	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和12	1937	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和13	1938	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和14	1939	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和15	1940	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和16	1941	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和17	1942	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和18	1943	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和19	1944	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和20	1945	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和21	1946	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和22	1947	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和23	1948	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和24	1949	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和25	1950	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和26	1951	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和27	1952	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和28	1953	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和29	1954	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和30	1955	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和31	1956	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和32	1957	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和33	1958	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和34	1959	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和35	1960	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和36	1961	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和37	1962	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和38	1963	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和39	1964	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和40	1965	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和41	1966	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和42	1967	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和43	1968	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和44	1969	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和45	1970	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和46	1971	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和47	1972	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和48	1973	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和49	1974	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和50	1975	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和51	1976	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和52	1977	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和53	1978	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和54	1979	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和55	1980	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和56	1981	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和57	1982	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和58	1983	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和59	1984	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和60	1985	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和61	1986	3月1日		鹿児島に到着、武村の自宅に帰る	
昭和62	1				